

大転換する世界と日本の道

「CHINDIA世紀の到来」

- 22世紀に向けて日本がとるべき戦略

名古屋市立大学22世紀研究所特任教授
日本ビジネスインテリジェンス協会会長
元東京経済大学経営学部大学院教授

中川 十郎

中・露が主導するSCO（上海協力機構）

✓ SCO（上海協力機構）とは・・・

中国とロシアが主導するユーラシア地域の安全保障・経済協力の
ための枠組み

- 10ヶ国
- ・加盟国：インド、パキスタン、イラン、カザフスタンなど
 - ・対話パートナー：トルコ、サウジアラビア、ラオスなど
 - ・オブザーバー国：アフガニスタン、モンゴルなど

✓ 2025年8月31日～9月1日、中国・天津でSCO首脳会議を開催

- の
- ・20ヶ国の首脳が出席 ⇒ グローバルサウスの結束を象徴するもの

SCOを取り巻く最近の動き①

ー トランプ米大統領による高関税政策の発動

- ✓ トランプ政権が高関税政策を乱発
⇒ グローバルサウスが中国、インドを中心に結束を強化
- ✓ 南米ブラジル、インドに対しても、50%の高関税を賦課
⇒ 米国とブラジル・インドとの関係も悪化の一途へ

**中国・インドを中心としたSCO・BRICSの結束が
強化される契機に**

SCOを取り巻く最近の動き②

ー 中国の国際影響力の拡大

- ✓ トランプ政権がUSAID（米国開発局）を廃止
⇒ 米国の新興・途上国への支援が後退
- ✓ 中国は一帶一路構想を通じて、途上国への貿易・物流・インフラ整備を拡大
⇒ 中国の途上国への影響が強まる可能性
- ✓ ASEAN（10ヶ国）はSCOオブザーバーとして参加する一方で、中国は、南寧で、毎年、ASEAN貿易見本市を開催
⇒ 中国はASEANとの経済連携をさらに強化

中国のグローバルサウスへの主導権がさらに高まる見込み

SCOの存在感の高まり

✓ “数字”から見るSCO

SCOの加盟国 ... 10ヶ国（インド、ロシア、イラン、中央アジア諸国など）

- ・人口 : 34億人 ⇒ 世界の42% (2024年)
- ・GDP : 2.2兆ドル ⇒ 世界の25% (2023年)
- ・貿易額 : 8兆ドル ⇒ 世界の18% (2022年)

✓ 拡大の一途をたどるSCOの影響力

- ・1996年 「上海ファイブ」（中・露・カザフ・キルギス・タジクスタン）として発足
- ・2001年 ウズベキスタンが加盟
- ・2017年以降 さらに、インド、パキスタン、イラン、ベラルーシが加盟

⇒ 南西アジア、東欧まで広がる中央アジア広域経済圏を構築

中国による「天津宣言」と人民元戦略

- ✓ SCOを構成する地域は、中国の広域経済圏構想「一带一路」の中心地域
- ✓ 2025年9月、習近平主席が、2035年までのSCO発展戦略「天津宣言」に署名
 - ⇒ 米国中心の国際秩序からの脱却、多国間主義の推進・実現
人民元建て融資の拡大による非ドル決済網の構築
- ✓ 加えて、今回の天津SCO会議では、SCO開発銀行の早期設立を表明
 - ⇒ 中国が過去に設立したAIIB^{*}、BRICS銀行と連携し、人民元決済を拡大
- ✓ 中国の「氷上シルクロード構想」（北極海航路を活用した新物流ルート）
 - ⇒ 欧州への貨物輸送を開始 ... 従来（中東経由）の40日を18日に短縮^{※）AIIBアジアインフラ投資銀行}
中国の北極圏進出は地政学的にも注目される動きで、今後也要注視

BRICSの動きとも合わせ、中国を中心とするロシア、インドなどSCOの動きへの注目が必要

インドとTICAD（アフリカ開発東京会議）の動向

✓ インドの状況

- ・ 好調な経済 ... 実質GDP成長率：7.8%（2025年4～6月期）
- ・ 向こう20～30年は「人口ボーナス期」 ... 減少傾向の中国と対照的

	インド ↗	中国 ↘
2040年の人口	16.1億人	13.8億人
2050年の生産年齢人口	11.2億人	7.4億人

- ✓ 2025年8月、TICAD9(第9回アフリカ開発東京国際会議) が横浜で開催
... 54ヶ国からなるアフリカのトランプ高関税対応策に高い関心
期間中開催された“TICAD ビジネスExpo & Conference”（JETRO主催）
... 出展企業200社で過去最高、MOU(覚書) 交換も300件超

経済戦略におけるインド・アフリカの重要性

- ✓ アフリカは「最後のフロンティア」
- ✓ 日本は「インド洋・アフリカ巨大経済圏」の構築を目指すべき
 - ・インド・トルコ・中東など第三国の企業との連携が戦略の柱
(英・仏・ベルギーなど旧宗主国の企業と連携の動きも一部にあり)
 - ・日本政府が本年2月に提唱した「アフリカの持続可能な経済発展のための
日印協力イニシアティブ」の下、インドへの産業集積、アフリカへの民間投資・
雇用創出、人財育成の取り組みのさらなる促進が求められる
- ✓ 日本企業は、以下の点に鑑み、インド経由のアフリカ向け輸出、そのための
デジタル物流網構築に尽力することが重要
 - ・インドとアフリカの地理的・歴史的な近接性
 - ・インド企業・ビジネスパーソンのアフリカでの実績の活用

トルコとの連携強化

✓ トルコ ...

中央アジア、中東、特に北アフリカと歴史的・宗教的（回教圏）に関係深い

⇒ ダニエル・ベル博士も来日時の講演で、トルコの中央アジア、中東、北アフリカへの影響力の強さ、地政学的重要性を指摘

✓ 日本の総合商社×トルコのゼネコンで、ウズベキスタンに、病床800の病院、100万kwの風力発電所、160万kwの火力発電所の開発を進めている

インドと並び、アフリカでのトルコ企業との連携・協力も推進すべき

中国のアフリカ戦略と日本の対応

✓ アフリカの人口

- ・ 15億人（2025年） ⇒ 25億人（2050年）

- ... 「世界人口の4人に1人がアフリカ人」

- ・ 21世紀後半～22世紀に、アフリカは「残された最大のマーケット」に。

✓ 中国は「一帯一路」広域経済圏構想で、アフリカに攻勢

- ・ 中国のアフリカ投資（2025年上半期）：400億ドル（全体の3割強）

- ・ アフリカのレアメタル・鉱物資源の確保を目指し、インフラを整備

日本は、インド、トルコなどアフリカとの関係が深い国々に加え、アフリカ進出に熱心な中国も含め、Win-Winの関係で、競争と

協力のバランスをとりながらアフリカ戦略を進めることが重要

まとめ

- ✓ 21世紀前半は中国、後半はインドを含むアジアの時代
- ✓ 21世紀後半から22世紀にかけては、アフリカの世紀が到来



- ・日本のグローバル・マーケティング戦略は、今後躍進する中国、インド、アジアを中心に、未来の大市場アフリカ攻略が決め手
- ・インド、トルコ、さらには中国をも活用した「アフリカ戦略」を提言
- ・筆者が提唱している「CHINDIA」（中国・インド戦略）に加え、「AACI」（ASEAN・アフリカ・中国・インド戦略）に日本が

ご清聴ありがとうございました